

生化学検査薬の国内市場を調査

2008年見込のメタボ健診関連検査8項目

検査数は12億6,800万件(前年比4.2%増) 検査薬市場は259億円(前年比6.6%増)

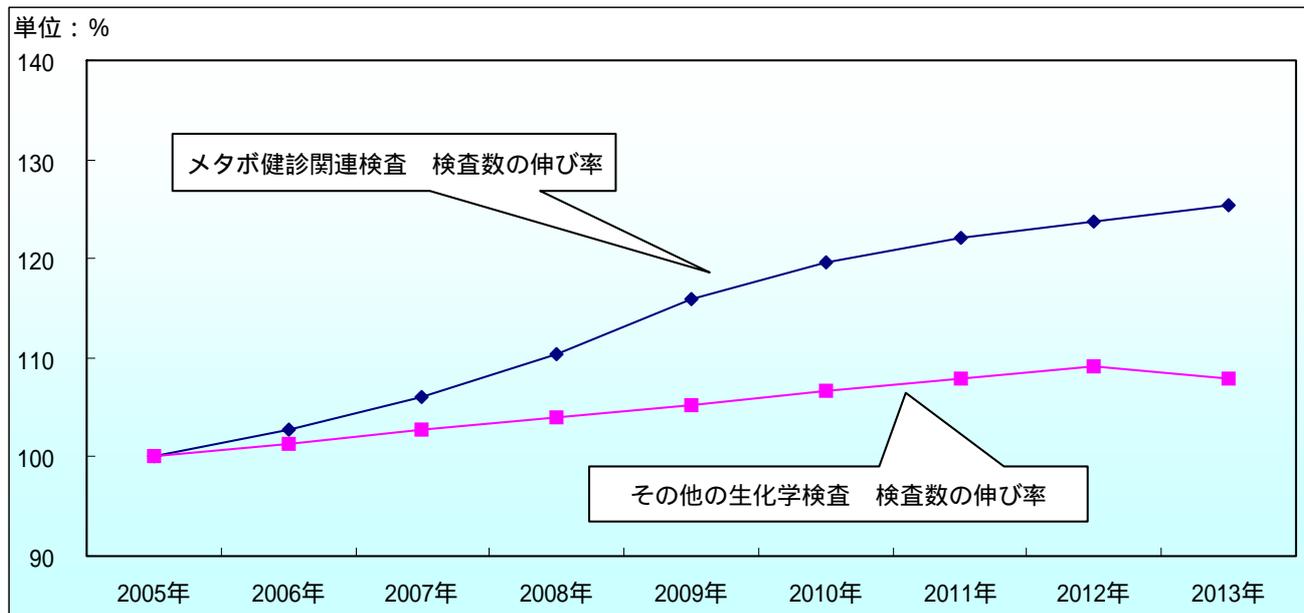
* その他生化学の検査数は1.3%の微増(前年比) 検査薬市場は0.8%の微減(前年比) *

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811)は、メタボリックシンドロームに着目した本格的な生活習慣病予防のための健診事業の到来で沸きあがる国内の生化学検査薬の市場調査を行った。その結果を報告書「2008 生化学検査市場」にまとめた。

この報告書では、国内で実施されている生化学検査全てを網羅し、検査領域別、項目別、メーカー別に検査薬市場を提示し、併せて装置市場とメーカーの動向を明らかにした。

生化学検査とは血液や尿などを生化学的測定法により分析し、身体の健康状態や病気の程度を調べる検査。

<メタボ健診開始による検査数の動向>



2008年は見込、2009年以降は予測

生化学検査の検査数は、メタボ健診関連検査の検査数を除外。メタボ健診関連検査のHbA1cには免疫的手法による検査数を含む。伸び率は2005年を基準(100)とする。

08年4月から、40歳～74歳の医療保険加入者を対象として、内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防のための「特定健康診査」及び「特定保健指導」の実施を医療保険者に義務付ける、いわゆるメタボ健診が開始された。肥満症、糖尿病、高血圧症、高脂血症などの生活習慣病の前段階をメタボリックシンドロームと位置づけ、健診によってスクリーニングし、必要度に応じた効果的な保健指導の徹底を図り、有病者や予備軍を減少させ、健康増進や生活の質の向上、結果として医療費の適正化を図ることを目的としている。

メタボ健診の実施で、生化学検査に関わる検査項目は中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール、血糖、GOT、GPT、 γ -GTP、HbA1cの8項目である。そのうち血糖とHbA1cを除く6項目が必須検査で、血糖とHbA1cは健診実施機関の判断で、どちらか一つ選択し必須とすることとなった。検査コストは比較的高いが、HbA1cを選択する健診実施機関は多いと見られる。

メタボ健診関連検査の検査数

		2007年	2008年見込	07年比
メタボ健診関連検査	検査数	12億1,690万件	12億6,800万件	104.2%
	検査薬市場	243億円	259億円	106.6%
その他の生化学検査	検査数	18億4,172万件	18億6,541万件	101.3%
	検査薬市場	256億円	254億円	99.2%

メタボ健診関連検査のHbA1cには免疫的手法による検査が含まれているため、メタボ健診関連検査とその他の生化学検査の検査数及び検査薬市場を合算しても生化学検査の検査数及び検査薬市場に一致しません。

メタボ健診関連検査を除く生化学検査の検査数が年率1%程度の微増であるのに対し、ここ数年、生活習慣病が注目され脂質関連検査、特にLDLコレステロールの検査数が急激に伸びているが、メタボ健診関連検査の検査数は、健診が開始されたことで更に拡大し、08年には前年比4.2%増、09年には前年比5%台の拡大が予測される。国民健康保険の医療保険者である自治体の中には、メタボ健診実施に十分な準備が整っていないところもあり、メタボ健診による検査数拡大は数年に亘り徐々に進むと見られる。

< 調査結果の概要 >

1. 生化学検査市場

	2007年	2008年見込	2013年予測	07年比
検査数	29億7,622万件	30億3,361万件	32億2,960万件	107.6%
検査薬市場	454億円	460億円	447億円	98.5%

07年の生化学検査の検査薬市場は454億円、検査数は29億7,622万件となった。検査数は対前年比1.7%の増加、検査薬市場は微減である。2年に一度実施される保険改定により、生化学検査の保険点数は前回比マイナスの改定が繰り返され、その度に検査薬は価格の低下を余儀なくされ、検査数は微増しているものの検査薬市場は減少している。近年、自動化学分析装置の1検査当たりの検査薬使用量の微量化がすすみ、病院をはじめとするユーザーの検査薬消費量が減少しており、検査数の伸長に比例した伸びが望めなくなっていることも大きく影響している。

今後の生化学検査は、検査数が微増で推移すると予想される。保険改定による更なるマルメを導入できるころはし尽くし、保険点数の引き下げもほぼ限界であるため、一定の検査環境の中で検査数は自然増ベースで推移すると考えられる。検査薬市場は、検査単価の下落によりマイナス成長と判断される。08年、09年とメタボ健診効果でプラス成長が見込まれるが、2010年以降は再び緩やかな減少で推移する。

検査実施料（診療報酬）の包括制度。検査を実施した分だけ請求できていたものが、請求できる分が限られてしまう。

2. 注目検査の動向

1) LDLコレステロール

HDLコレステロールは、末梢組織のコレステロールを肝臓に転送するのに対し、LDLコレステロールは、肝臓のコレステロールを末梢組織に転送する。そのため、HDLは善玉、LDLは悪玉のコレステロールと表現される。LDLコレステロールは、その値が高いと虚血性心疾患や脳血管障害などの発生率が高くなることから、動脈硬化の指標とされている。

HDLコレステロールを簡便に測定できる検査薬がLDLコレステロールに先立ち開発され、普及した。LDLコレステロールは総コレステロールとHDLコレステロール、中性脂肪の値から計算で算出された。しかし、中性脂肪が高値のケースでは、計算上のLDLコレステロールは低値に算出される問題があった。後にLDLコレステロールの簡便な測定方法が開発されたが、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロールの三項目のうち、同時測定で保険請求できる項目は二項目に限られ、先行普及した総コレステロールとHDLコレステロールのコンビネーションが一般化していたため、LDLコレステロールの普及は進まなかった。しかし、ここ数年、これまで検査数を伸ばしてきたHDLコレステロールは伸びが鈍化し、LDLコレステロールの検査数が急激に伸びている。07年の検査数は6,670万件で前年比21.5%も増加した。高脂血症患者の評価にLDLコレステロールの値が採用されたことや、LDLコレステロール値改善のため投与されるスタチン系薬剤の効果判定に採用されるなど、三項目を同時に実施するケースが増加していることが、LDLコレステロールの検査数増加の要因である。そして08年もメタボ健診の必須検査となったため更に拡大し検査数は8,330万件と前年比24.9%増が見込まれる。

2) HbA1c

糖尿病は、血糖の検査が第一選択の基本項目となる。HbA1cは血糖に次ぐ第二の検査項目である。HbA1cは過去1ヶ月間の血糖値を反映する糖化蛋白であり、日本糖尿病学会の診断基準では、明らかな糖尿病の症状が認められる場合やある特定の条件下による血糖値の上昇のほか、HbA1cが6.5%以上の場合に糖尿病と診断する。

HbA1cの測定方法には生化学的手法のHPLC法と酵素法のほか、免疫学的手法のラテックス定量法がある。HPLC法は病院を中心に普及し、大量検体処理に適したラテックス定量法は、検査センターにおける主要な測定方法となっている。ラテックス定量法によるHbA1c専用の小型測定装置も開発され、主に開業医に普及している。また、酵素法のHbA1c検査キットも開発されている。

HbA1cはメタボ健診の必須項目ではないが、多くの健診実施機関が選択するとみられ、検査数の増加が見込まれている。07年に免疫的手法によるものも含め検査数は前年比14.0%増の1億3,700万件、診断薬市場は前年比9.1%増の9,772百万円となった。検査数の40%、検査薬市場の54%がHPLC法と酵素法の生化学的手法によるものである。今後は、メタボ健診で大量の検査をすることになるためラテックス定量法、酵素法の検査数が大きく伸びて、免疫的手法による検査のウエイトが高まると予想される。また、健診で発見された患者・要指導者の定期的な検査では、検査精度に優れるHPLC法が採用されるケースが多くなるため、これまでに比べHPLC法の検査数の伸びも高くなると見込まれる。HbA1c全体の検査数の伸びのピークは08年、09年頃と考えられ、この二年でそれまで潜在していた健診人口が顕在化し、以降検査数の伸びは徐々に鈍化すると見られる。

以上

<調査対象>

生化学検査薬及び生化学検査関連装置5品目

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入メーカー及び関連企業・団体等へのヒアリング調査及び関連文献、社内データベースを併用

<調査期間>

2008年1月～3月

資料タイトル:	「2008 生化学検査市場」
体 裁 :	A4判 112頁
価 格 :	200,000円(税込み210,000円) CD-ROM付価格 210,000円(税込み220,500円)
調査・編集 :	富士経済 東京マーケティング本部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発 行 所 :	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-9514 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/